

祝！500回達成

～NN.REIKOリニューアル～



平成22年から始めた庄内総合支庁農村計画課ホームページは、平成29年度末を以って、500回となりました。

庄内の旬の情報をお届けしてきた3代目は、4月を以って着任3年目に突入。

ここで、何か新しさを！と、このたびホームページをリニューアル。

皆さまに楽しんでいただけるホームページを目指して。

これからも精進してまいります。

引き続き、ご愛顧ください。

よろしく願いいたします。

～由良地域づくりの第一歩～



4月7日(土)午前8時、「みんなで地域を歩き、これまで気づかずにいた“由良の魅力”を再発見しよう」をテーマに、鶴岡市由良地域で地域めぐりを行いました。

天気はくもり。朝8時、由良コミセンに由良観光協会、漁業者会、由良自治会、由良の女性など、20名が集まりました。

これまで気に留めなかった石碑を立ち止まってじっくり見たり、最近行ってなかった場所に行ってみたり、初めての景色に感激したり・・・日頃通り慣れた道、見慣れた景色と書いていても、みんなで歩いてみると、多くの発見があることに気づくことができました。



歩く機会が減っていることを実感



防火水槽はここにあったのか～

終盤は雨が降ってきましたが、「天気良かったら、地域を見下ろせる山まで行ってみよう」「もっといい景色を見に行こう」と盛り上がり終了しました。



参加者みんなで記念撮影

地域では、昨年の11月から、地域のために活動している組織ごとにワークショップを実施してきました。

本日の地域めぐりは、由良地域を盛り上げるために、まずは自分たちが地域のことをよく知り、訪れた方々にその魅力を伝えなければ、と由良観光協会の発案で実施したものです。

由良地域の方々がめざす“これからの由良”になるために、これからも話し合いの場をつくり、計画を育てていきます。

引き続き、みなさんの熱い思いを応援していきます。

～ただいま満開～



4月30日、七五三掛桜が満開です。

昨年は5月9日に満開を迎えていたので、例年より早く満開になりました。



これまでの七五三掛桜情報は、NN.REIKOバックナンバーでもご覧いただけます。

検索目次で“七五三掛”をチェック。掲載記事を探してみてね。

http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/reiko_backnumber2.html

～水土里ネットいなば『田んぼの学校』～



年間5回のイベントを企画運営してきた、水土里ネットいなば「田んぼの学校」は、今年で16年目。

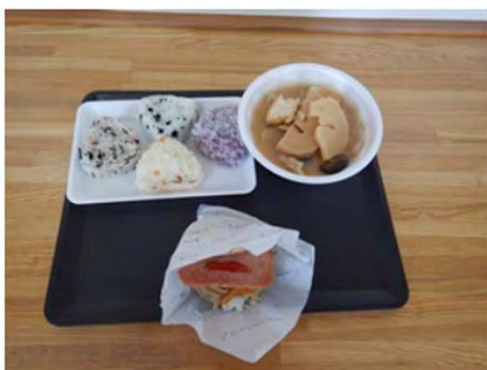
5月13日(日)、水土里ネットいなば主催の田んぼの学校『田植え & 孟宗掘り体験』が行われました。
今年の孟宗掘りは、鶴岡市羽黒町高寺まで足を延ばしました。



泥の感触にだんだん慣れてきた



大きい孟宗みつけた



各種おにぎり & 孟宗汁 手前はライスバーガー

いつもおいしい、工夫を凝らした昼食で、おなかも心もいっぱい。
恒例のクイズ大会で、頭も使って、充実した1日となりました。

～関川 田舎うまいもん食堂～



5月13日(日)、関川しな織センターを会場に開催された『第1回田舎うまいもん食堂』に行ってきました。
関川の山菜料理とべろべろもちをいただき、しな織や薪割りの体験ができるという企画です。



山野の恵みあるれる山菜料理の定食 500円！

べろべろもちはぜんざいでいただきました。
関川の食文化にふれる、貴重な体験ができました。

～やまがたの棚田20選 暮坪～



県内で唯一、海が見える棚田「暮坪」。

5月13日(日)8時30分。風はありませんが、くもりのため海はぼんやり見えます。

今年も地域の子どもたちと達人、合わせて20名ほどで田植えを行いました。



線に沿って、まっすぐ植えてね



お疲れ様でした 最後に記念撮影

暮坪集落では、毎年この田んぼで田植えと稲刈り体験を実施しています。

ここで収穫したお米は、ひとり暮らしのお年寄りにおすそ分けしており、早くも期待されているとか。

暮坪の棚田は、地域みんなの力で守られています。

～ドローン操作研修会～



5月21日および25日の両日、庄内総合支庁農村計画課農村整備課の職員を対象としたドローン操作研修会を行いました。

農村計画課では、無人航空機ドローンを平成27年度に購入。多面的機能支払交付金における農地維持・共同活動のPRのほか、災害発生により立ち入ることが困難な場所の撮影、ほ場整備工事の進捗状況の撮影などに利用しています。

今後も適切に活用していくには、パイロットの育成が不可欠なため、今年度も研修会を開催しました。

ドローン使用にあたって、飛行ルールや性能などの基礎知識と管理の方法を学んだあと、現場に移動して、操作の訓練を行いました。



基礎知識と管理の方法



操作方法を説明後、各自実践

自信を持って操縦できるようになるまでは、経験を積むほかありません。

個々の技術力を磨き、業務に役立ててみよう。

今年度も、さまざまな研修を企画していきます。

～願いを込めて作る～



子どもたちの成長、家族の安泰や無病息災を祈って作る『笹まき』。
県内各地で、巻き方や食べ方はさまざま。



こぶし巻き



黒蜜ときな粉をつけて召し上がれ

写真は灰汁につけて吸水させたもち米を笹の葉で巻き、2時間ほど煮た笹まき。
灰汁の量や煮る時間は、庄内でも各地域で異なるようです。
各地域の郷土の味をお試しください。

笹まきについては、『農楽里(norari)』vol.12やまがたの食 (PDF:606kB)もご覧ください。
<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/vol12/norari12HP-P16-P17.pdf>

田植えが終わりました

～月山と大沢ため池～



庄内地域の田んぼでは、田植えが終わりました。



写真は、今野川土地改良区管内の上空から撮影したものです。

奥に月山、中央に大沢ため池が見えます。

農業の担い手は減少していますが、庄内地域の農地は、多面的機能支払交付金などの活用により、地域の方々の理解と協力によって、守られています。

～農村環境保全指導員の活動状況17～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

5月22日(火)、鶴岡市三瀬地域の鈴木正農村環境保全指導員が企画した笹まきづくり体験会に行ってきました。

今回は、デイサービスセンターとようらの利用者を対象としたもので、本日から3日間、実施されます。



鈴木農村環境保全指導員「楽しみましょう」

この活動は昨年からは実施しており、毎回、地域から2名の方がお手伝いとして参加しています。



こぶし巻き



三角巻き



できあがり

利用者で、手伝った経験のある方は、自然と手が動きます。1時間で約30個を巻き終えました。にこやかに参加する方が多く、最後には「まだ来てくれの～」 「笹まき、サイコー」という声が上がリ、皆さん満足げでした。

鈴木農村環境保全指導員の活動は、地域資源を循環させることで、経済面も心理面も潤う地域を目指そうとするものです。

県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～鶴岡市 ビストロ下水道～



鶴岡市浄化センターでは、下水道由来の資源・エネルギーを有効に活用し、循環できるシステムを構築することによって、下水道・農業・食の連携を図る下水道資源農業利用調査(ビストロ下水道)を実施しています。

下水処理水は、窒素・リン酸・カリを含んでいるため、肥料を使うことなく、品質・収量ともに従来よりも優れた米を収穫できると言われています。

山形大学は平成25年度から研究を始め、これまでの成果を踏まえて、今年5月から実際のほ場にかんがい水として下水道処理水を供給する、本格的な飼料用米栽培を実施することになりました。

5月24日(木)、この取組みの成功を祈念して、ミス日本水の天使と市長による田植えイベントが開催されました。



写真中央が水の天使 浦底さん

地域にあるエネルギーをいかに使い、循環させることができるか。地域の利益につなげられるか。今後も注目していきます。

泥んこ田植え

～庄内町立余目第一小学校4年生～



庄内町家根合地域では、ほ場整備事業をきっかけに、小学校と地域が一緒になってメダカの保全や環境学習、農業体験を行っています。

5月25日、めだかの里米水田において、庄内町立余目第一小学校4年生42名が地域の方々と一緒に田植えを行いました。



息を合わせて 形付け作業



線に沿って植えるんだよ

作業のあとは、「田んぼの水はどこから来るの？」最上川土地改良区からクイズ形式で解説してもらいました。



本日の田植え体験は、余目第一小学校とNPO法人家根合生態系保全活動センターが企画運営しているものです。

子どもたちが地域の自然を守りたい、という思いから始まったこれらの活動を今年度も応援していきます。

～まやのやかたへようこそ～



5月27日(日)、摩耶山山開き「春の登山会」に行ってきました。

集合場所は、越沢「まやのやかた」。同時開催の寒ざらしそば祭りでも、おいしいそばをいただきました。



天ぷら、小鉢、笹まきがついて、1,000円

越沢にある棚田は、やまがた棚田20選に選定されています。

やまがた棚田20選は、棚田の素晴らしさやそれを守る地域の活動を内外に発信し、地域活動の輪を広げ、次世代に引き継ぐ…これらの取組みを応援するため県が選定しているものです。

棚田を知り、肌で感じてもらうきっかけづくりとして、県は、やまがた棚田20選のうち7か所で、「棚田カード」を作成しました。

越沢のカードは、まやのやかたで配布しています。

ぜひ、手に取ってご覧ください。



県HP やまがたの棚田カード誕生！で旬の情報も併せてご覧ください。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/yamagatanotanada20sen.html>

さあ、棚田にでかけよう！

～メダカを田んぼに放流～



6月4日(月)、庄内町家根合地域のめだかの里米水田において、ふれあいホーム家根合の児童18名、地域の子どもたち4名によるメダカの放流が行われました。



放流するメダカ



一斉に放流



泳いでいったよ

本日放流したメダカは、7月20日のメダカの引っ越し(捕獲作業)まで、田んぼで大きくなります。家根合地域では、大人、子ども、地域みんなが関わって、環境保全を意識した活動を続けてきました。来年で活動開始から20年になります。

これまでの活動については、NN.REIKOバックナンバーで検索してね。

http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/reiko_backnumber2.html

～地域を元気に～



6月8日(金)、山形県農村環境保全指導員委嘱状交付式及び農村環境保全指導員研修会が山形県自治会館において行われました。



指導員の代理で委嘱状受理

研修会では、事務局から「山形県農業農村整備長期計画(やまがた農業農村元気づくり応援プラン)」策定の趣旨、施策における農村環境保全指導員の意義と果たす役割、活動経費についての説明があり、その後、休憩をはさんで元気な活動づくりのためのワークショップを行いました。



活動経費についての説明



ワークショップをやってみよう

ワークショップは、指導員と市町村担当者が7班に分かれ、山形県農村の弱み・強み・使えるもの・不安なことを出し合い、それをもとに地域をよくしていくための提案と実行計画を検討しました。

指導員の方々から、地域の課題や地域のよさを生かすための取組みなど、さまざまな視点で話を聞くことができました。改めて、その思いをつなぐための支援が必要だと感じた研修会となりました。

庄内管内の農村環境保全指導員の活動については、NN.REIKOバックナンバーで検索してね。

～庄内赤川土地改良区管内編～



6月8日(金)、庄内赤川土地改良区の管理施設を巡る研修会が行われました。
およそ11,000haの農地をかかえる庄内赤川土地改良区。今年は4施設について研修しました。



菅野代頭首工 八沢川水路トンネルを抜けて急流の越戸沢川幹線用水路へ



赤川地区小水力発電所

天保堰頭首工

先人の苦難の道のりを思いつつ、維持管理の大変さも感じました。

～地域で取組む小水力発電～



小水力発電は地域の大切な資源。

今年度も、鶴岡市大網地域で実証試験を行います。

6月9日(土)、発電装置を設置し、電気系統を接続。11日(月)にバッテリー充電を確認しました。

6月下旬の電気柵設置に向け、今後も、現地で微調整を行います。



～北楯大堰編～



今から400年前、広大な庄内平野は最上川の水位が低く、作物の育たない原野となっていました。慶長6年、最上義光の家臣 北館大学助利長公は、狩川城主として、水利に恵まれず困窮する人々をなんとかしようと、月山を水源とする立谷沢川からの導水を計画。慶長17年3月に着工し、難工事の末、慶長17年7月に延長10kmを超える北楯大堰が完成しました。

その後、3年をかけて整備し、総延長は32kmに及び、狩川から余目、酒田の5,000haあまりの水田を潤し、米どころ庄内平野の基礎となりました。以降、国営事業等により修繕されてきましたが、一部石積み水路の姿を残しています。



開削から400年 北楯大堰



立谷沢川から取水する北楯頭首工

現地を巡り、その歴史に思いを馳せてみませんか。

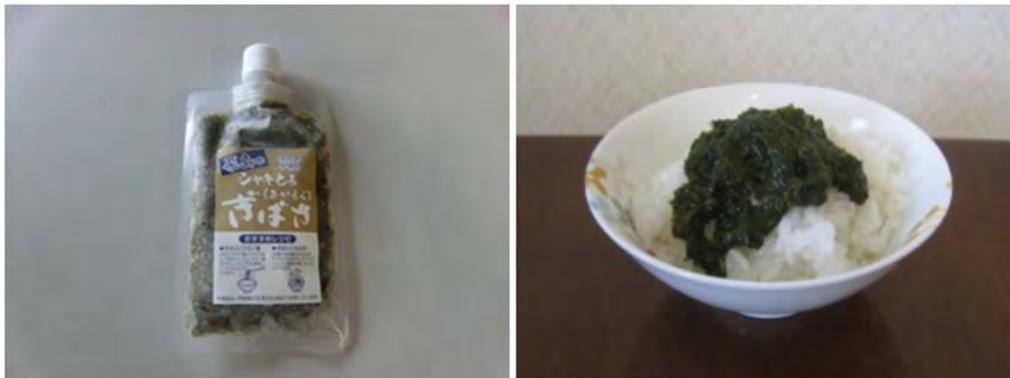
トロシャキ『ギバサ』

～酒田市飛島産海藻～



『ギバサ』は、正式名称を『アカモク』といい、全国的にみられるホンダワラ科の海藻です。酒田市飛島では、4月下旬から5月上旬に収穫されますが、これまで広く販売されていませんでした。

このたび、島の漁業者と県漁業協同組合が連携し、商品化しました。



飛島産の天然アカモクをゆでて細かくきざみ、チューブタイプのパックに詰めたもの

この取組みを契機に、漁業者の皆さんが元気になれば、と思います。

ご飯に乗せると磯の香りが広がります。

トロ、シャキの食感を味わってみてはいかがでしょうか。

4年生メダカの学習

～庄内町余目第一小 4年生～



余目第一小学校では、環境学習の一環としてメダカの学習を行っています。

6月13日(水)、家根合地域の佐藤昭一さんから、これまでのメダカ保全活動について4年生にお話しいただきました。

天気がよければ、メダカ保全池で学習会を行う予定でしたが、あいにくの雨。

校内での学習となりましたが、児童の皆さんから、たくさんの質問があり、内容を深めることができました。



話を熱心に聞く4年生の皆さん

これまでの活動を整理したパネルで振り返る

家根合地域では、大人、子ども、地域みんなが関わって、環境保全を意識した活動を続けてきました。

これまでの活動については、NN.REIKOバックナンバーで検索してね。

http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/reiko_backnumber2.html

～ため池神社例祭～



6月15日(金)、日向川土地改良区が管理する堂見沢ため池、五台ため池、数河ため池のため池神社例祭に参加しました。



県は、ため池ごとに想定される氾濫区域の情報を共有して、地域の危機管理意識を醸成し、緊急時の対処方法など地域の話合いに活用いただくことを目的に、平成25年度からため池ハザードマップを作成しています。

県が作成したハザードマップは、緊急時の危険氾濫区域を整理した基礎情報です。皆さんの地域の「もしも」に備えた話し合いにご活用ください。



堂見沢ため池、五台ため池、数河ため池のハザードマップは、酒田市HPでも公表されています。

～農村環境保全指導員の活動状況18～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

6月16日(土)、鶴岡市朝日地域 田口比呂貴指導員が、ぜんまい小屋の復元作業を行いました。

田口指導員はこれまで、旧朝日村大鳥地域に残る採集文化、特に山菜採りについて資料の採集や聞き取り調査を行ってきました。

昨年度は、それらをパネルに整理して大鳥音楽祭において披露。その後、タキタロウ館に常設して地域内外の多くの方々に山村生活の文化を紹介しました。

今年度は、その文化を体感、実感するためにぜんまい小屋の復元に取り組んでいます。



地元経験者の指導のもと、作業



完成

田口指導員は、本日の作業の状況を映像として記録していました。

地域の記憶をこれからの地域のために記録にする作業。

地域の元気がここから生まれていくことを期待しています。

県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～飛島農道側溝泥上げ・路面掃き作業～



6月22日、農村計画課・農村整備課等職員有志による、恒例の飛島地区の農道側溝の泥上げ、路面掃きのボランティア活動を行いました。

飛島を縦貫する農道は、農業農村整備事業(農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業)で造られたもので、完了から20年余りが経過。施設の老朽化に伴い、より一層の適時的確な維持管理が必要とされているところです。

平成24年度から始めたボランティア活動は、今回で6回目。これまで延べ100名ほどの職員が参加してきました。



今回は13名が作業に参加

飛島には、多くのボランティア団体が訪れています。海外からの観光客も増えてきたそうです。地域を元気にするために、庄内地域に住む私たちが、地域の魅力を知り、広く伝えていくこともひとつの方法。

私たちができることは何か、農業農村整備でバックアップできることはないか、これからも考えていきます。

飛島農免農道については、やまがたの農山漁村づくり情報マガジン『農楽里(norari)』にも掲載しています。(PDF1.1MB)

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari/norarivol28/v28%2014-15.pdf>

飛魚だし

～酒田市飛島産～



『飛魚だし』は、酒田市飛島の沖で獲れたトビウオを丁寧に炭火で焼き、天日干したものだ。



丁寧な仕事が、臭みのない香ばしいだしをつくれます。

山形県民が大好きなラーメンのだしにも多く使われ、「あごだし」と呼ばれています。

ここ数年は、漁獲量が伸びず、飛島のお土産屋さんの店頭には並ばなかった飛魚だし。今年は購入することができました。

飛島では、炭火焼と天日干しの真っただ中。いたるところで香ばしい、いい香りが漂っています。

この時期におすすめ。トビシマカンゾウも見頃です。



～農村環境保全指導員の活動状況19～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

6月24日(日)、鶴岡市藤島地域の佐藤友二農村環境保全指導員が田んぼの学校の活動を行いました。

まずは、田んぼの除草作業について勉強しました。

この田んぼでは、除草剤を使わず、カモが泳ぎ回することで、雑草の生育を抑える栽培をしています。除草作業にはたいへん労力を要します。

カモにしっかり働いてもらうためには、カモの安全を確保することも必要です。電気柵を設置していますが、今年は、当初放したカモが襲われてしまい、再購入したとのこと。通常の栽培に比べ、4倍の経費がかかっています。

この田んぼを管理している飯鉢さんは、「たいへんな労力がかかりますが、待ってくれるお客さまがいるので、裏切らないようにがんばっています」とのことでした。



続いて、夏を目前に、救急救命の講習を受けました。



毎年、鶴岡市消防署の職員の方々から丁寧に説明いただいております。AEDを使える貴重な機会となっています。

救急車が駆け付けるまで、通常8分ほどかかるといわれています。その間、救命措置を行うことで、救える可能性は2倍高くなるとのこと。

もしもの時のために、身につけておきたいものです。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～農村環境保全指導員の活動状況20～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

6月24日(日)、鶴岡市羽黒地域の齋藤徳美農村環境保全指導員がブナの森の環境保全活動を行いました。

齋藤指導員は、羽黒小学校児童と一緒にブナの森の整備や自然活動を行うことで、その経験が地域との絆を深めると考え、毎年植樹地の耕起や草刈り、苗木の採取を実施してきました。

植樹が行われた田代谷地ため池は笹川土地改良区が管理しており、植樹作業は「水源林を守るブナの植樹」として笹川土地改良区21世紀土地改良区創造運動に位置づけられています。

本日は、羽黒小学校5年生30名が親子で参加しました。



改良区が作業を実演



みんなで作ってみよう

苗木は、学校で1年間育て、その後現地に植樹しています。

昨冬は雪が多かったため、折れてしまった苗木もあったとか。

それぞれ自分の苗木に命名して、愛着もわいてきました。

名前を書き込んだプレート苗木に添えて、今日の作業は終了。元気に大きく育ちますように。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～酒田市前川で実証実験～



実証実験は、情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業の普及を目指して、県が実施しているものです。



設置状況(給水側)



設置状況(排水側)

ほ場の水位や水温を測定できる装置を水田に設置し、給水バルブをスマートフォンで遠隔操作して水位調整ができるという仕組み。装置の設置により、水管理にかかる労働時間の削減が見込まれます。

分散している水田の水管理は、大規模農家の負担となっています。
作業と経費の両面で、いかに効果的な設置ができるか、今後注目です。

～山形県産さくらんぼ 期待の新品種～



『山形C12号』は、昨秋、農林水産省に品種登録を出願した期待の新品種。
2023年6月の本格販売開始を目指しています。



500円玉大の大きさ

果肉は硬め。海外への輸出品種としても期待されています。

ただ今、「山形C12号」の名称を募集中。詳しくは、下記のページをご覧ください。

<http://www.yamagata.nmai.org/c12go/>

これから「紅秀峰」がピークを迎えます。

ぜひ、山形の旬をご堪能ください。

～農村環境保全指導員の活動状況21～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

6月29日(金)、鶴岡市朝日地域の田口比呂貴農村環境保全指導員の活動に行ってきました。

田口指導員が今年度の活動として取り組んだ「ぜんまい小屋」の復元については、NN.REIKO第522号ぜんまい小屋復元で報告したところです。

本日は、「大鳥音楽祭」の前夜祭として、山村の暮らしに興味がある他の地域の方を交えて、ぜんまい小屋の復元に関わった地元の方々から、ぜんまい小屋や大鳥での暮らしについてお話を伺いました。

復元したぜんまい小屋を囲んで話を聞く予定でしたが、あいにくの雨。

となりのタキタロウ館の中で山菜料理をいただきながら、「ぜんまい小屋ができるまで」の記録映像を視聴しました。



記録映像「ぜんまい小屋ができるまで」 山菜料理(イワナの塩焼き、山菜、おにぎり)

映像を観終ったころにはちょうど雨がやみ、みんなでぜんまい小屋へ移動。
十数年前までぜんまい小屋で作業をしていた方からお話を伺いました。

1年の収入の約半分を占めたとされるぜんまい。集落の誰でも採ることができたわけではなく、ぜんまい小屋を掛ける(設置する)ことができたのは、限られた人だったとのこと。



ぜんまい小屋へ案内する田口指導員



小屋の中で昔のお話を聞く



木と木の結束方法を説明

復元したぜんまい小屋はタキタロウ館の前にあります。
詳しくは、タキタロウ館に展示されているパネルもご覧ください。

山形県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～外航クルーズ船 ダイヤモンド・プリンセス～



7月1日(日)、酒田港に豪華客船『ダイヤモンド・プリンセス』が初寄港しました。



全長290メートル、高さ50メートル超の船体

港は、朝から寄港を待つ市民でにぎわいました。
乗客は約3,000人とのこと。
庄内の匂を体感して、また訪れていただけるといいなあ。

～環境に配慮した整備を目指して～



庄内町西興野にある田んぼ脇の水路はほとんどが素掘水路。

多くの生き物が住みやすい環境である一方、農家の方々は、水管理に苦労しています。

そこで、ほ場を広くして、その管理労力の軽減を図ろうと、ほ場整備の要望が高まっています。

7月4日(水)、地域の環境を把握することを目的に、生き物調査を行いました。



台風7号は温帯低気圧になったものの、強風のなか、地域の方々、最上川土地改良区など15名が2班に分かれて調査しました。

水稲の中干し時期となり、田んぼの水はありませんが、水路にはトノサマガエルやカワニナ、マドジョウがたくさん。

畦畔に穴をあけ、稲の根を食い荒らすといわれる外来種のアメリカザリガニも多く見つかりました。

今回の調査結果を整理して、計画を積み上げていきます。

～鶴岡市立西郷小学校6年生～



7月5日(木)、西郷小学校6年生24名がミズバショウの移植とほ場整備現地学習を行いました。本日の学習にあたり、6年生の皆さんは西郷土地改良区から事前にミズバショウの説明を受けて臨んでいます。

ミズバショウは、昨年種をまき、育苗してきたものです。天候がよければ選果場近くの湿地に移植する予定でしたが、降雨の予報だったため、今回はプランターへの移植に変更となりました。



プランターに土を入れ、苗を植える



水苔を敷き詰めて乾燥防止



できあがり

ミズバショウの学習に加え、ほ場整備事業で整備された施設の見学も行いました。



西郷北部揚水機場の仕組み



ポンプの大きさにびっくり

小学校の学習は、西郷北部地区で実施しているほ場整備事業の着手に併せて始まりました。事業は今年度で完了しますが、これまで実施してきたミズバショウの学習は、改良区主導で継続される予定です。

～鶴岡市Bistro下水道の取組み～



鶴岡市では、下水道由来の「処理水」「コンポスト」などの資源、「熱」エネルギーを有効に活用することで、地域内で循環できるシステムを構築しようと、下水道・農業・食の連携を図ることを目的に、平成29年度から下水道資源農業利用調査(ビストロ下水道)に取り組んでいます。

7月6日(金)、その取組みを学ぶ研修会を行いました。



下水道処理水を利用した飼料用米栽培についての講義(山形大学農学部 渡部教授)



余熱を利用した農業用ハウス



消化ガス発電の仕組み



汚泥処理としてコンポストを製造販売

地方自治体と大学、さらにJAまで参画している鶴岡市の取組みは、珍しいとのこと。
地域に住む私たちが、その取組みを知り、地域資源の循環を意識して生活することが大切だと気がきました。

～北楯大堰まち歩き～



駅を起点にまち歩きを楽しむ「駅からハイキング」。庄内町観光協会がガイドする「自然と歴史を感じる風のまち狩川コース」に参加しました。

今回の参加者は関東から4名、酒田市から2名の少数精鋭。はじめに、北楯大堰をつくり庄内平野開墾の父とされる北館大学利長公の居城 狩川城跡の楯山公園へ。



楯山公園 北館大学利長公像前にて

園内にある「歴史民俗資料館」は7月、8月の2か月しか開館していません。8月末まで庄内町出身の佐藤幸徳中将※の遺品展が開催されています。

※佐藤幸徳中将：第二次大戦のインパール作戦で上官の命令に背いて軍を撤退させ、一万人を超える命を救ったといわれる

それから、北館公を祀る「北館神社」にお参りし、風車村の展望台に上って庄内を一望。



北館神社にお参り

今度は町に下り、北館公ゆかりの「孝五郎稲荷」に立ち寄り、庄内札所三十三観音霊場第二十四番「冷岩寺」に参拝。今年は10年に一度の観音様の御開帳ですが、出羽七福神のひとつ「走り大黒」も一見の価値があります。



北楯大堰沿いを歩き、庄内札所三十三観音霊場「冷岩寺」へ

最後に、北館公の墓所がある「見龍寺」を訪れて解散しました。
庄内町の「駅からハイキング」、9月は清川駅周辺で開催されます。
興味がわいてきた皆さん、参加してみたいかがですか。

～笹川左岸上流・中川代地区～



県内各地で、ほ場整備の要望が高まっています。
笹川土地改良区管内でも上流部にあたる「笹川左岸上流」「中川代」地区。
将来、この地域で農業を続けていくために、地域みんなの考えを確かめ合い、営農計画をつくろうと話合
いを始めました。

本日は、その1回目。

熟練の技世代、バリバリ現役世代、地域を担う若手世代に分かれ、世代ごとに考えを整理しました。



地域の現状は？いいところ、ダメなところはなんだろう わきあいあいと



班ごとに話した内容を発表して、それぞれの世代の考えを共有

世代を問わず、皆さん仲良く、それぞれを尊重し合う方々だと感じました。
いつも顔を合わせる仲間でも、地域の農業について考える、議論する機会は、なかなかありません。
皆さんが、納得しながら計画づくりを進めていくために。
農村計画課は、お手伝いしていきます。

～田んぼからメダカ保全池へ引越し～



庄内町家根合地域では、恒例となっているメダカ引越しの時期を迎えました。

メダカは、6月にめだかの里米水田に300匹放流したものです。

田んぼは、これから中干しの時期に入り、水をはらうため、田んぼにいるメダカをメダカ保全池に移動します。



せき止めた排水路へ田んぼの水を一気に抜くと、メダカは排水路に移動。それをタモですくいます。

今日は、余目第一公民館事業「親子DE楽笑くらぶ」と「ふれあいホーム家根合」の子どもたちや家根合地域の方々など、総勢50名が集まりました。

メダカは、1匹あたり500個の卵を産むため、田んぼで増えた多くのメダカを捕まえることができました。

中干しは、田んぼの稲が強く丈夫に育つように、行う作業です。

引越ししたメダカも、保全池で大きく成長し、家根合地域全体で守られていきます。

家根合地域では、NPO法人 家根合生態系保全活動センターが中心になり、地域の大人も子どもも、みんなが関わって、環境保全を意識した活動が行われています。

～農業農村整備長期計画説明会・意見交換会～



県は、昨年3月、山形県農林水産振興計画の見直しが行われたことや平成30年度以降の米政策の見直しへの対応として、農業農村整備分野における新たな施策展開の必要性が高まったことを踏まえ、現長期計画を見直し、新たな10年計画として『山形県農業農村整備長期計画』を策定しました。

長期計画は、これから10年の施策展開と成果目標を示したものです。

今後、自分たちがどのように業務と向き合い、地域と関わっていくべきか、改めて考える機会をつくるため、7月23日(月)、長期計画説明会・意見交換会を開催しました。



長期計画についての説明

説明の後に、日頃の業務と関連付けながら、ワークショップによる意見交換を行いました。

若手・中堅・ベテランにそれぞれ班分けし、各世代ごとにテーマを決めて話し合いました。



1班(日頃の業務の課題と改善点について)

⇒それぞれ、個々の考えを共有することで、自分の考えが整理され、新たな視点で改善の方法がみえてくる



2班と3班(要望が高まっているほ場整備のあり方について)

⇒地域の要望を把握し、県として地域の実態を踏まえて、いかに応えていくべきか



最後に、各班の話し合った内容を発表し、参加者全員の思いを共有して終了しました。

いま、ワークショップの手法により、参加者全員の思いをくみ取る話し合いの場が増えています。

ワークショップは、エネルギーを要する話し合いのため、終わった時にはその達成感、充実感でいっぱいになります。

でも、そこで終わったらもったいない。この話し合いを心にとめて、今後の業務に活かすこと、意識することが大切です。

職員同士が声をかけあい、意識して、いい仕事を創っていきたいと思います。

～笹川土地改良区 水土里ネット推進委員会活動～



笹川土地改良区は、毎年この時期に、泉保育園の園児を対象とした『わくわく川遊び』を実施しています。普段は遊ぶことのできない川で、安全管理のもと、ペットボトルいかだで川渡りをしたり、揚水機場前の広場で水遊びをして楽しみました。



両岸からロープで引っ張り、川を往復



水風船釣り、おもちゃすくい



プール、ボール遊び

子どもたちは歓声を上げながら、楽しい時間を過ごしました。

鶴岡市羽黒地域の齋藤徳美農村環境保全指導員が、川遊びのスタッフとして参加していたので、お話を伺いました。

「子どもの頃の思い出は、ずっと心に残っているもの。子どもたちに、楽しかったなあと記憶に残る経験をたくさんさせてあげたい。」

子どもたちの笑顔が、地域の大人を元気にして、次の活動への活力になっています。

県は、地域を元気にする活動を応援しています。

～日向川地区 月光川地区～



7月30日(月)、平成26年度から小水力発電事業を実施している日向川地区、月光川地区の両地区で、発電を開始しました。



日向川小水力発電所スイッチオン



導水管の確認



平津小水力発電所スイッチオン



パネルで発電状況を確認

いずれの地区も、待望の発電開始を迎えました。
施設の竣工式は、8月末に予定されています。

～庄内管内94か所～



県では、7月31日(火)から8月24日まで約1か月の予定で、ため池緊急点検が始まりました。
8月1日(木)、庄内管内では、2班体制で点検を行いました。



今回のため池緊急点検は、西日本を中心に広範囲で甚大な被害が発生した7月豪雨において、農業用ため池の決壊や損壊等により下流の家屋や公共施設が被災するという事案があったことから、全国で一斉に実施することになったものです。

点検は、管理者、市町村担当者、県等が連携して実施しています。

～2018夏号 配信しています～

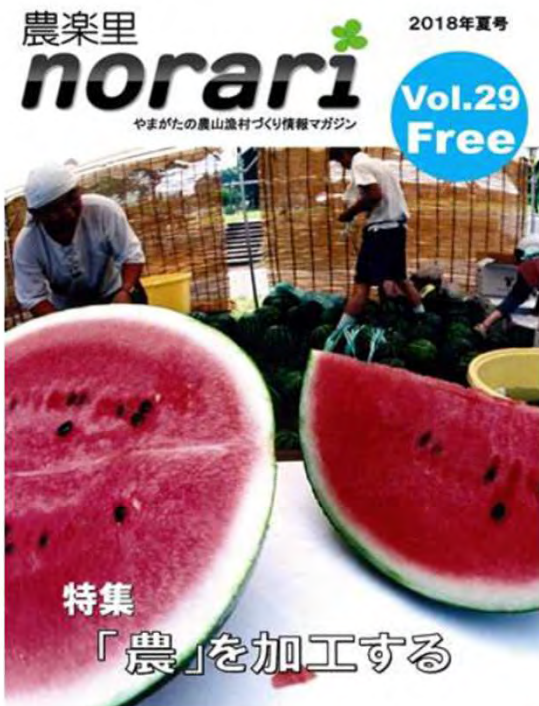


元気な農山漁村を作っていきたい、農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい・・・『農楽里norari』は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、既に参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する“職員手作り”の情報誌です。

夏号は、8月1日に山形県HPにアップされました。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」夏号

<http://www.pref.yamagata.jp/purpose/koho/kohoshi/6140017norari.html>



今回の特集は、「農」を加工する。

県内各地で6次産業化に取り組む方々と県産農産物を使った加工食品の商品開発を応援する「食品加工支援ラボ」を紹介しています。

庄内からは、三川町の「かつらぎ会」。平成4年に設立し、加工品の開発、研究を重ねてきました。

会のイチオシは里芋だんご。はえぬきのデビューに併せ、米の消費拡大のため開発したもので、学校給食に採用されています。

ぜひご覧ください。

～庄内全域で時間雨量20mm超～



庄内平野の水田は、いよいよ出穂期に突入。
これまでの降雨量が少なかったため、恵みの雨を期待していました。



水位が3割程まで低下した下池(7月31日現在)

8月5日(日)ふじしま夏祭り。恒例の魚のつかみ取りでは、毎年、内陸からイワナを取り寄せて実施しています。

今年は、渇水のためダムの水を放流したところ、水が濁りイワナが酸欠状態となって、全滅。多くの人でにぎわう企画は中止となりました。

企画は中止になっても、水路の清掃だけはみんなでやろう！ということで、因幡堰土地改良区の呼びかけで、JA庄内たがわ、山形県土地改良連合会庄内支所、鶴岡市、県など関係者が清掃作業を行いました。



泥をすくい、ブラシで磨く



掃除が終わったせせらぎ水路

きれいになったところで雨が降り出しました。
恵みの雨、と思ったのもつかの間。なかなか止んでくれません。
雨は、時折強く、6日の明け方まで降り続けることとなりました。

(参考値)庄内管内の最大雨量と観測地

- ・大平ー時間雨量81mm
- ・上草津ー24時間雨量270mm



6日朝 藤島川(庄内町瀧)の状況

現在、管内市町、土地改良区では現地調査を実施し、被害状況の把握に努めているところです。
調査されている皆さん、自身の安全を第一に、作業をお願いします。
県は、被災の状況を把握し、すみやかな復旧に向けて、管理者、市町、土地改良区と連携して対応していきます。

～やまがたの柵田20選 越沢～



8月7日(火)、鶴岡市越沢にさくらんぼテレビの方々が取材にいらっしゃいました。



越沢地域を散策しながら撮影

地域の方に話を聞きながら柵田へ向かう

今年3月、柵田を広く知っていただき、その保全活動を理解いただきたい、支援いただきたいという思いから、県は県内7か所で『柵田カード』を作成しました。

今回の放送は、地域で柵田を守る活動をされている方々とのふれあいや現地の様子を伝える内容となるようです。

放送をきっかけに、たくさんの方々が越沢を知り、訪れていただければと思います。

県は、柵田保全活動を応援しています。

(放送) 8月18日(土) さくらんぼテレビ「昼どきTV やまがたチョイス」の予定

～加茂地区グランドデザイン検討委員会ワークショップ～



8月8日(水)、加茂地区コミュニティセンターにおいてワークショップを行いました。

ワークショップは昨年の1月から始めて、今回が3回目。

前回のワークショップから、4か月以上経過。今回から参加する方もいるということで、これまでの振り返りを行い、参加者の共有を図りました。



地域の強み活かしていくには？伸ばしていくには？弱みを改善するには？なくすには？
加茂地区の住民としての視点、自分が所属する組織・団体としての視点、両方の立場で考え、参加者それぞれの思いを共有しました。

それぞれの思いを話すことで、新たな発見や意思の疎通、考えの共有が図られるワークショップ。
加茂の地域づくりは、また一步、動き出しました。

これから地域のためにできること・・・自分たちが納得できるこたえを求めて。
それぞれの立場で、地域のあるべき姿をイメージした目標づくりを進めていきます。

皆さんの熱い思いで、地域を元気にしていきましょう。
そんな皆さんのお手伝いをしていきます。

～農村環境保全指導員の活動状況22～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

8月11日(土)、庄内町立川地域の小野寺博農村環境保全指導員の活動『わんぱくザッコ釣り大会』に参加しました。



荒鍋内川農村公園で、地域の子どもたちを対象に、地域の自然にふれ、地域の方々とふれあうことを目的に毎年実施されているものです。

気温の上昇と共に、釣れにくくなってきましたが、ヒラブナなどの在来種のほかに、今年もブラックバスやブルーギルが釣れました。

小野寺指導員は、地域の環境を守る活動のひとつとして、毎秋、外来種の駆除を行っていますが、なかなか全滅とまではいかないようです。地道な活動が重要であることを再認識したザッコ釣り大会となりました。

～北楯大堰400年の歴史～



庄内平野の水田農業の一翼を担っている北楯大堰が、このたび「世界かんがい施設遺産」に登録されました。農業のみならず、地域の発展への貢献度が高く、適切に維持管理している施設として認められたこととなります。



北楯大堰は、1612年に最上義光の家臣で狩川城主の北館大学助利長の指揮のもと、立谷沢川から引水し開削された堰です。開削により広大な原野は水田となり、新たな村が開かれ、米どころ庄内の礎を築きました。国や県による改修工事を経て、現在も約2,900haの水田に、農業用水を供給しています。



これを機に、ぜひ、現地で歴史にふれてみませんか。

小水力発電所竣工

～庄内管内2か所で建設～



平成26年度より遊佐町小原田地内および酒田市福山地内の2か所で、県が建設を進めてきた「小水力発電所」が完成し、これから運営および管理を担う土地改良区主催の竣工式が執り行われました。

○平津小水力発電所(竣工式:平成30年8月27日実施)



神事



関係機関代表者による点灯式



- ・最大出力:60.1KW(年間発電量:363Mwh[一般家庭約110戸分])
- ・運営・管理:月光川土地改良区
- ・発電方法:月光川頭首工から取水する月光川左岸幹線用水路の流下水を利用した軸流プロペラ水車による発電

○日向川小水力発電所(竣工式:平成30年8月31日実施)



関係機関代表者による起動式



発電所建設までの流れを説明



- ・最大出力:118KW(年間発電量:670Mwh[一般家庭約203戸分])
- ・運営・管理:日向川土地改良区
- ・発電方法:日向川頭首工から取水する両止幹線用水路の流下水を利用した軸流プロペラ水車による発電

両発電所は、東日本大震災を踏まえて平成24年3月に策定した「山形県エネルギー戦略」に基づき整備した、農業用水路を活用する小水力発電所です。

発電により得た収入は、それぞれの土地改良区の施設の維持管理経費として役立てられます。

～ほ場整備計画地区で生きもの調査～



ほ場整備を計画している地区では、具体的な環境配慮対策を検討するための「生きもの調査」を行っています。

9月5日(水)、笹川左岸上流地区の水路で、魚類、両生類、爬虫類、昆虫等を採集しました。



生きもの採集状況



石の陰に隠れているよ

捕まえた生きものは、山形県環境アドバイザーの水野先生に同定してもらい、それぞれの特徴などを説明いただきました。

今回の調査では、水がきれいであることの証明ともいえるイワナやシマアメンボも確認することができました。



農業者が高齢化し、減少するなか、庄内管内では、担い手へ農地を集積しつつ、農地条件を改善して、更なる営農の省力化を図りたい、という要望が高まっています。

これから、地域の豊かな環境を守る配慮をしつつ、ほ場整備実施に向けた計画づくりを進めていきます。

～ため池緊急点検結果を公表～



県のため池緊急点検は、8月30日までにすべての点検を完了しました。



このたびの緊急点検は、西日本を中心に広範囲で甚大な被害が発生した7月豪雨において、農業用ため池の決壊や損壊等により下流の家屋や公共施設が被災するという事案があったことから、全国で一斉に実施することになったものです。

9月6日9時30分、農林水産省のホームページに「全国ため池緊急点検の結果」が公表されました。

農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/bousai/180906.html>

これを受け、県でも13時に点検結果について、プレスリリースを行いました。

山形県ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/pickup/interview/pressrelease/2018/09/05110739/>

点検した392箇所のため池のうち、今後の豪雨や台風等に備えて応急措置が必要と判断されたため池はありませんでした。

今後も、定期的な点検等を行いながら、安全に有効に使えるよう、管理していきましょう。
点検、お疲れさまでした。



～鶴岡市Bistro下水道の取組み～



鶴岡市では、下水道由来の「処理水」「コンポスト」などの資源、「熱」エネルギーを有効に活用することで、地域内で循環できるシステムを構築しようと、下水道・農業・食の連携を図ることを目的に、平成29年度から下水道資源農業利用調査(ピストロ下水道)に取り組んでいます。

9月6日(木)、下水道処理水を利用した飼料用米の生育状況はご覧のとおり。



(左)食用米

(右)飼料用米実証ほ場

下水道処理水は、窒素分が多いためか、葉が青々としていました。

先日、台風21号の強風に見舞われた庄内平野。

黄金色に染まってきた田んぼは、まもなく、稲刈りの時期を迎えます。

～歴史の里きよかわ～



駅を起点にまち歩きを楽しむ「駅からハイキング」。
今回は庄内町清川の「戊辰戦争清川口の戦いを辿るコース」に行ってきました。



清川関所跡、芭蕉上陸の地

8月上旬の豪雨の影響でJR陸羽西線の古口～清川間が不通(バス代行)のため、参加者数は申込み時より減ったようですが、関東、仙台などから12名が参加しました。



笑顔がすてきなガイドさん

きよかわ観光ガイドの会のお二人から説明を受けながら、清川関所跡、芭蕉上陸の地、戊辰戦争の激戦地「御殿林」、清河神社、清河八郎記念館、戊辰戦争の官軍墳墓、8月に「世界かんがい施設遺産」に登録された「北楯大堰」沿いを歩きました。



世界かんがい施設遺産 北楯大堰

8月の豪雨で流入した土砂排除のため、北楯大堰に水は流れていませんでしたが、普段は見ることでできない魚巣ブロック(魚が棲めるように工夫された水路)をみることができました。



魚巣ブロック

『歴史の里』と言われる清川の魅力がぎゅっと詰まった、大満足のコースでした。

次回、10月7日の「駅からハイキング」は、余目駅周辺で実りの秋を満喫するまち歩きが開催されるそうです。参加には予約が必要です。お問い合わせ・申込みは、庄内町観光協会まで。

～9月11日から配布開始～



山形県は、平成20年2月に棚田の魅力を再認識するとともに、付加価値のある資源として磨き上げ、次世代へと継承していく取組みとして「やまがたの棚田20選」を認定しました。

棚田の素晴らしさやそれを守る地域の活動を発信していく方法のひとつとして、県は今年3月に「棚田カード」を県内7地区で作成し、棚田近隣の施設で配布しています。

本日から、その第2弾として、8地区で配布が始まりました。

やまがたの 棚田カード 第2弾!!

現地でGET

里山に囲まれた棚田は、その景観や自然環境が昔ながらに残され、県民に安らぎを与えてくれる貴重な空間になっています。
棚田の素晴らしさやそれを守る地域の活動を内外に発信し、地域活動の輪を広げ、棚田を次世代の子どもたちに引き継いでいきましょう。
山形県では、これらの取組みを応援するため「やまがたの棚田20選」を選定しています。

棚田を訪ねて
棚田を応援しよう



里地里山の
いろんな役割
（やまがたの里山漁村づくり地域マカソンズ
「ゆきやま」プロジェクト）

- | | | | |
|---------------------------------|-------------|--------------------|--------------|
| ① 蔵王上野 さおうじのの | ② 小倉 おぐら | ③ 田麦野 たむぎの | ④ 高橋 たかはし |
| | | | |
| 山形市 上野ふれあいプラザ21
山形市上野の温泉天神乃湯 | 上山市 中川地区公民館 | 天童市 湯野の聖交海地蔵仏壇444C | 尾花沢市 宮沢地区公民館 |
| ⑤ 明光寺 みょうこうじ | ⑥ 大浦 おおくら | ⑦ 海上 かいしやう | ⑧ 暮坪 くれつば |
| | | | |
| 尾花沢市 宮沢地区公民館 | 大石田町 大石田遺物館 | 高森町 ゆうきの里・さんざん | 鶴岡市 鶴岡市漁協庁舎 |

やまがたの棚田へのアクセス、棚田カードの配布場所を今すぐチェック
やまがたの棚田 Q 山形県農林水産部農村計画課 中山部広報担当 TEL 023-630-2495 FAX 023-630-2509

- <第1弾地区はコチラ>
- | | | | | | | |
|--------------------------|--------|---------|---------|----------|-----------|--------|
| 楮平 新庄市 | 大蔵 山形市 | 四ヶ村 大蔵村 | 中沢 村山町 | 深山 西郷町 | 大網 鶴岡市 | 越沢 鶴岡市 |
| | | | | | | |
| →442国道沿い・秋田県 山形県境沿い・14号線 | | ふるさと稲米館 | 中沢集落展示所 | 深山和紙センター | 新庄副都心センター | まやのやがた |

庄内管内では、第1弾で鶴岡市大網、越沢の2地区。第2弾で鶴岡市暮坪のカードを作成しています。

これから、稲刈りの時期を迎える棚田。
地域活動の輪を広げ、子どもたちにつなぐのが、私たちの役目です。
さあ、棚田に出かけよう。

～ただいま「幸水」の最盛期～



酒田市刈屋へ、広報誌『農楽里』の取材に行ってきました。

現在、幸水の最盛期を迎えており、土井さんの園地では、5名の方々が収穫と仕分け作業の真只中。



9月は収穫と出荷で忙しく、夜の8時まで作業することもあるそうです。

先週は、台風21号の強風にあおられ、落果の被害もありましたが、秋の日差しを受けながら、丹精込めた梨を大切に収穫していました。



＜＜ミニ知識＞＞ 食べ頃と保存方法

黄色に近いものが食べ頃。追熟はしない。

品質の低下を防ぐため、冷蔵庫での保存がおすすめ。

直売所で買ったなら、すぐに冷蔵庫へ。

庄内の旬を召し上がれ。

～やまがたの棚田20選 暮坪～



県内で唯一、海が見える棚田「暮坪」。

9月23日(日)9時。スッキリと晴れて、稲刈り日和。

今年も地域の方々、子どもたち、合わせて30名ほどが集まり、稲刈りを行いました。



子どもからお年寄りまで鎌に気を付けて手刈り 息を合わせて杭掛け作業



杭掛け完了

暮坪集落では、毎年この田んぼで田植えと稲刈り体験を実施しています。
ここで収穫したお米は、ひとり暮らしのお年寄りにおすそ分けする予定とのこと。
暮坪の棚田は、地域みんなの力で守られています。

9月24日付けの山形新聞1面に暮坪の棚田が掲載されました。
併せてご覧ください。

～農村環境保全指導員の活動状況23～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

9月23日(日)、鶴岡市櫛引地域の佐久間朋美農村環境指導員の活動『ぶどう園の小さなカフェ』に行ってきました。

ぶどう園は、秋のめぐみを味わいに、多くの方々が訪れていました。



佐久間指導員が経営するぶどう園で、ぶどうの皮を使ったぶどう染めのワークショップなどを盛り込んだ、プチマルシェを開催し、多くの方にぶどうの魅力を伝え、その資源を余すことなく使用した循環型農業を目指す活動です。

次回は、10月14日(日)予定されています。

カラフルぶどう園のFacebookもご覧ください。

～砂丘放棄地から本格芋焼酎～



やまがたの農山漁村づくり情報マガジン『農楽里norari』冬号の取材に行ってきました。

冬号では、地域で育った作物を使って造るお酒特集を予定しています。

庄内からは、遊佐町特産品『耕作くん』を取材しました。

耕作放棄地対策として砂丘地で作り始めた、さつまいも。「利益を上げる方法のひとつとして芋焼酎を造ろう」と始まったプロジェクトは、遊佐ブランド推進協議会が事務局となって、今年で8年目となりました。

その取組みについて、遊佐ブランド推進協議会 森事業推進員からお話を伺いました。



さつまいもは、遊佐町産ベにはるかを使用。

赤いパッケージになって、今年で2年目となりました。

「道の駅 鳥海ふらっと」ほか、町内の酒店で取り扱っています。

平成30年産さつまいもは、10月27日(土)に収穫する予定とのこと。

今年の出来はどうでしょうか。楽しみです。

～農村環境保全指導員の活動状況24～



農村環境保全指導員は、土地改良施設や農地等の保全や農村地域の活性化を推進することを目的として活動いただいている方々で、旧市町村ごとに設置しており、庄内管内には14名いらっしゃいます。

9月29日(土)、鶴岡市藤島地域の佐藤友二農村環境指導員の活動 水土里ネットいなばたんぼの学校『稲刈り体験』に行ってきました。

春に田植えをした稲が実りの秋を迎えました。



稲の刈り方を説明



ケガをしないようにやってみよう



杭掛け作業のお手伝い「はいどうぞ」まんべんなく乾くように互い違いに掛けていきます



今回は、農家の方々にも参加いただき、プロの仕事を見せていただきました。

手作業による刈取りと杭掛け・・・コンバインの性能が向上し、農家の方々も手で刈取る機会は減っています。

参加者は、農家さんから稲をかがぐ(束ねる)作業を熱心に聞き、何とか習得しようと一生懸命でした。

作業が終わったら、お待ちかねのいなば特製昼食。



おにぎりは、新米銘柄当てクイズ(はえぬき、ひとめぼれ、雪若丸、ど～れだ?)

芋煮は、庄内味噌味(上)、内陸しょうゆ味(左)、いなば特製塩味(右下)の3種

佐藤指導員は、自然体験活動は、人としてよりよく生きていくための「自然と人のあり方を考え」「生きる力をはぐくむ」と考えており、地域文化や地域資源(特に農業用水)の持つ役割の重要性を伝える活動を通して、よい人づくり、社会づくりを目指そうとするものです。

次回は、11月18日(日)、そば打ち体験&収穫祭が予定されています。